

大石田町と宮城県涌谷町が ともに歩み紡いできた友好の絆

平成25年9月20日以来
今日まで交流だけでは
さまざまな出来事とおして
これまでを振り返りな
続く両町の友好交流
なく、災害支援など
絆を深め合ってきた両町
がら、次への10年へ

有事の備えとして結んだ 友好交流協定

大石田町と宮城県涌谷町は、平成25年9月20日に友好交流協定を締結し、令和5年9月20日で協定締結10周年を迎えました。

平成23年に発生した東日本大震災を受け、大規模災害が発生した際に助け合える相手先を探していた両町に、旧知の仲の職員がいたことがきっかけとなり、当時の庄司喜興太町長と故安部周治涌谷町長の時代に協定締結に至りました。

その協定締結を皮切りに、今日に至るまで、行政レベルだけでなく、住民同士のさまざまな交流が行われてきました。

子どもたちによる交流

平成26年2月、涌谷中学校の生徒たちが大石田町を訪問し、除雪ボランティアをはじめ、涌谷町では馴染みのない雪国の生活を体験する事業が行われました。同年の夏には、大石田町の小学生が涌谷町を訪れ、砂金とり体験などを通じて涌谷町の歴史と文化にふれました。さらに、両町の少年野球チームの交流戦が同年に初開催され、コロナ禍をへさみ、令和5年まで交流が続いています。

大人たちの文化の交流

毎年夏に、大石田町のメインイベントとして開催している大石田まつり「維新祭」に、涌谷町のすずめ踊り団体の

「万葉さくら組」が出演しています。平成27年の涌谷町のわくや桜まつりには、大石田町の阿波踊り団体の「最上川芭蕉連」が出演しており、両町のまつりを大いに盛り上げました。以降、維新祭に涌谷町の太鼓団体「涌谷太鼓」も出演するようになり、交流の輪が広がっていきました。

また、涌谷町の秋の風物詩の「秋の山唄全国大会」には、平成26年から大石田町の木村里美さんが出場し、平成30年に優勝を果たし、両町の交流の象徴となりました。令和5年からは、大石田町民謡研究会の芳賀清副会長が、秋の山唄全国大会の審査員を務めています。

産業をとおして 互いの存在をそばに感じる

交流事業の中で人気を博しているのが、涌谷町の「出張砂金とり体験」と、大石田町の「手打ちそば美演会」です。

涌谷町からは、毎年、大石田町新そばまつりに、物販とともに、「出張砂金とり体験」が行われています。日本初の産金地として知られる涌谷町ならではのイベントが行われており、毎回多くの参加者が産金の浪漫を感じています。

まちづくりを知る交流

両町のイベントへの参加以外にも、両町の職員や議会議員による交流研修会が行われてきたほか、民生委員児童委員や農事実行組合連合会、地

域おこし協力隊などが交流・連携し、それぞれの町でどのようなまちづくりが行われているのかを知り、切磋琢磨してきました。

災害時の相互支援

さまざまな交流を通じて絆を深め合ってきた大石田町と涌谷町。友好交流協定の本来の目的となる有事の際の相互支援も、この10年の間に、たびたび実践してきました。

令和元年に発生した東日本台風の際には、大石田町から有志が駆け付け、被災した家屋の濡れた畳の搬出などに携わり、令和2年7月豪雨災害の際は、涌谷町から1週間以上にわたって職員が派遣され、給水支援にあたりました。令和4年に発生した福島県沖地

震では、断水となった涌谷町に大石田町から職員が飲料水の提供と給水活動の支援を行うなど、災害時には生活基盤を支え合ってきました。

協定締結10周年記念企画

友好交流協定締結10周年を記念し、インスタグラム上で、優秀作品を投稿した人に、両町の特産品を贈呈する写真コンテストを実施しています。さらに絆を深め合っていくため、奮ってご参加ください。詳細はP4〜5に掲載しています。

